

三島市長選

駅前再開発三者二様の意見

立候補予定者 前回到続き争点 公開討論会

任期満了に伴う三島市長選（11日告示、18日投票）の立候補予定者による公開討論会（三島青年会議所主催）が5日、市民文化会館で開かれ、現職の豊岡武士氏（79）、市議石井真人氏（43）、会社経営近藤正文氏（46）が登壇した。三島駅南口東街区の再開発事業に対する考えは3氏ともに食い違い、4年前の前回選に続き再び争点となる見通し。

状況にも触れ、「自然を守り、駅前にふさわしいものを造る必要がある。今の内容で良いのか、本当に見直す

時にきている」と語った。近藤氏は3氏で唯一の「反対」を明言。にぎわい創出効果に疑問を呈した上で、「数百億円を掛けるなら1日に1万人ぐらい来ないと割が合わない」と述べた。事業用地となる市有地の売却についても「安いときに売っても」安いときに売ってどうするのか。地価が上がってから売るべき」と主張した。このほか、市役所の新庁舎建て替えや経済対策などについても意見を交わした。（三島支局・金野真仁）



公開討論会で政策を語る（左から）近藤氏、石井氏、豊岡氏
＝三島市の市民文化会館

同事業は民間企業を一点や高層マンション、主体に広域健康医療拠商業施設などを建設

する計画。総事業費は209億円で、このうち補助金を含む市の支出は37億円を見込む。豊岡氏は「30年越しの最大の課題であり、三島の持続的発展には欠かせない。何として

もやり遂げる」と推進の姿勢を強調。懸念される資材価格の高騰には、「国が補助金を増額する動きもあり、十分に対応できる」とした。

石井氏は駅前開発には賛成するものの、費用便益比の低下や財政負担の増加に懸念を示した。地下水保全などに関する調査、検証を県が求めている

争責 市 飛 局